

米欧回覧

第19号
編集・発行
米欧回覧の会
事務局

第十七回例会は盛りだくさん！

西川教授の講演

「米欧回覧実記の現代性」他

記念すべきミレニアムの年度
初回となる第十七回例会は、四
月一日(土)午後一時より日本
プレスセンター十階ホールにお
いて、八十五名の参加者を得
て、盛会裡に行われた。

総合同会は浅沼晴男氏、初め
に主宰者の泉三郎氏より全体報
告も兼ねた挨拶があり、その後
各担当幹事から次頁の通りの報
告があった。

一時半からは会場の大スク
リーンを生かしてのインタ
ネット部会中山進氏、相澤真人
氏によるホームページのプレゼ
ンテーションがあり、新時代の
到来を印象づけるとともにその
編集内容と鮮明な画像が大喝采
を博した。

続いて映像部会、足立光正
氏、岩崎洋三氏による英文版ス
ライドのプレゼンテーションが
あり、この上映も本会の今後の

国際的な展開を暗示するものと
して大いなる期待を抱かせ盛ん
な拍手を浴びた。

その後二十分間のコーヒープ
レークに入り、二時三十分から
は半沢健市氏の司会進行で、京
都からお招きした立命館大学教
授の西川長夫氏の講演(別記)
があった。その後、当会の恒例
となったブンブン方式による質
疑応答も行われ、五時十分過ぎ
閉会となった。



挨拶する泉代表

二次会は田川信人氏の肝いり
により銀座のピアノサロンに会
場を移し「飲すべし、食すべ

し、歌うべし」のまさに「春宵
一刻値千金」の夕べとなった。

なお冒頭の泉三郎氏の挨拶要
旨は次の通り。

「米欧回覧の会も今回の例会か
ら五年目に入るのですが年を
追って素晴らしい方々に入会し
ていただき、活動の拠点となる
分科会もいくつもできて、会の
内容は一段と充実してしまし
た。真にご同慶の至りであり、
ご尽力いただいた方に心から感
謝申し上げます。

一方、この間、わが日本丸は
ダッチロールを続け、心あるも
のはその悪化する状況を座視し
えない事態にあります。私たち
は「岩倉使節団」にみる志、
『米欧回覧実記』にある使命感
に共感・共鳴するものとして、
なんらかの形でその精神を現代
日本に生かさなくてはならない
と思います。

時恰も世紀の大きな変わり目
に当たり、私たちは既に二〇〇
一プロジェクトを構想し当会の
五周年記念事業として結実させ
たいと考えております。この一
年はその準備の年であります。
その趣旨をご理解いただき特段
のご協力をお願いいたします」
最後に会計報告にふれ、特別
賛助金として寄せられた大勢の
方々のご芳志に心から感謝する
旨の挨拶があった。

平成日本が誇る豪華客
船「飛鳥」は今年も百日
間にわたる世界一周のク
ルーズに出かけ七月三日
に帰国する予定ですが、
私はシンガポールから
シャルムエルシェイクマ
で乗船し、「岩倉使節の
世界一周」について六回
にわたりレクチュアをし
てまいりました。

この航海には様々な楽
しみがありますが、その
一つはなんと
いつでも人との
出会いです。毎
日三食、誰かと
食卓を共にする
機会があり、そ
こでは自然に会
話がはずみま
す。いろいろの
職業の方、全国
各地の方、さま
ざまな人生を歩
いてこられた方々との出
会いは大変貴重なもので
す。

その中でも特に印象に
残ったことを一つだけご
紹介いたします。それは最近
リタイヤーされたある病
院の経営者・院長先生夫
妻との会食のときでし
た。「もうほっとしてい
るんです。ほんとに疲れ
ました。毎日が恐怖とい

使命感

泉三郎

う感じでした。なんと
か、ミスもなく大事にい
たらず引退することがで
きました」と、と心底から
おっしゃるのです。原因
は最近の医療ミスの続発
に象徴されていることで
した。医療制度の問題で
あり、モラルの弛緩であ
り、使命感の欠落です。
とりわけ若い世代のちや
ほやされて育った医者に
使命感が希薄なこと
です。「医者にな
りたくてなった
んじゃないんで
す。使命感が
あつてなったん
じゃないんで
す。親にいわ
れ、富と地位に
惹かれ、ただ勉
強だけしてなつ
た医者が多いん
です」。

これは医者の世界に限
らず、政治家、官僚、経
営者、弁護士、ジャーナ
リスト、教師など、およ
そエリートたるものに使
命感がありやなしやの問
題に通底していることで
あります。指導的立
場にある者の使命
感・それが今、最も
問われていることではな
いでしょうか。

充実した内容でビッグイベントに挑む 分科会・支部の多彩な活動報告

第17回例会

読む会

多田幸子氏

過去三十回丸三年間を要して、全五巻を読み終えた。この過程で音読の意義を再認識した。これから政治、経済、宗教、教育、軍事、あるいは国別に実記の本文記述ごとに掘り下げてゆく方針。

歴史部会

半澤健市氏

きたる四月二十四日は、福沢諭吉の文明論之概略を取り上げる。基本的には実記を出発点にしているが、部会としては「近代日本とはなんだのか」という大きなテーマに取り組み、いずれにしても二〇〇一プロジェクトを目指し、人物論を中心に、キメ細かく続けてゆきたい。

現未来部会

郡山史郎氏

「日本をどうしたらよいか」に取り組む。二〇〇一プロジェクトについては、二十世紀への提言を本にまとめゆく方針。来る四月十九日の会合を第一回として準備に入る。

国際交流部会

浅沼晴男氏

本年度がドイツにおける日

本年であることに対応し、八月末ベルリンで催される岩倉使節団展に因み、その記念行事に参加するため、八月二十七日成田発のツアーを組む。

(左下欄参照)

映像部会

岩崎洋三氏

映像部会のメインであるマラソソ上映会を昨年十二月に催した他、昨年の秋の一橋大学の学生祭、青山大学の授業に組み入れられた上映等を行った。また八月のベルリンにおける「岩倉使節展」では英語版を上映する予定である。

二〇〇一プロジェクト

石川直義氏

二〇〇一プロジェクトは、「実記」の現代語要約版及び英訳本の出版、「日本の近代百三十年の光と陰」の出版、「世界のなかの日本」二十一世紀の進路(仮題)の出版、二〇〇一年秋の「国際フォーラム」開催など四つの事業を行うつもりで準備をすすめている。

関西支部

山崎岳麿氏

関西在住二十名余のみな

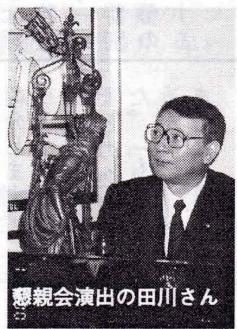
んに案内し、毎回十人程度の集りですでに八回を数え、大体三、四ヶ月に一回のメドで開催している。大阪にも知的デイスカッションの場が出来て喜ばしい。これまで「実記」分野別に各巻から拾い読みしてきたが、次回は、第一巻のアメリカ編を読みながら議論してゆく。メンバーを増やすことにも注力する。

「パリの雰囲気」の中で にぎやかに懇親会

第三部ともいべき懇親会は、銀座W INNに会場を移し、三十名が参加してにぎやかに行われた。



ここは正面にグラントピアノ、壁にはカシニョールの絵画、そしていずれ劣らぬ美術工芸品の花瓶にたっぷり花



懇親会演出の田川さん

をあしらったハイセンスなサロンであり、まさにパリの雰囲気。

初めに泉三郎氏が「倫敦ニアレハ、人ヲシテ勉強セシム、巴黎ニアレハ、人ヲシテ愉悦セシム」という「実記」の有名な一節を述べて、勉強の境地にひたろう!と乾杯

の音頭を取った。ワイン、ビール、ウイスキーはもちろん手づくりの料理が供された。ソプラノ歌手斎藤恵さん、ピアノの渡辺あけみさんも出演して、オペラの aria から春、故郷といった日本の歌まで披露し、さらには参加者有志の飛び入りも入り、素晴らしい二次会となった。

西川先生も終始ご満悦、会のために特別会費で店を解放されたオーナーの渡辺かつよさん、素晴らしい設営並びに進行をして下さった田川信人氏に感謝の拍手を贈って午後八時過ぎ散会となった。

ドイツツアー 5泊7日の旅のお誘い 国際交流部会主催

8月27日(日) 午前11時成田空港(全日空)発
9月2日(土) 成田空港着(又は9月1日現地解散)
費用 1人30万円弱(6月1日に確定します)
ツアーリーダー 山田哲司さん(ドイツ駐在経験あり)
ベルリン(2泊)-ボン(1泊)-フランクフルト(2泊)
ホテルは☆☆☆☆ 2人1室使用

8月28日 於:ラットハウス(旧ベルリン市庁舎)
日本年記念イベント「岩倉使節団展」に参加
●泉三郎氏による映像講演会(午前)
●記念シンポジウムとレセプション(午後・夜)
久米邦貞大使、岩倉具忠氏もご参加の予定です。

現地でのスケジュールを全員で完了後は、自由行動OKです。全日空を使用の場合のみ、上記料金内にて、パリ、スイス、ロンドンなど全日空機の出る空港から帰国できます(1ヶ月間有効)。

お問合せ・お申込み:国際交流部会又は事務局

リッチな内容で登場 ホームページ

午後一時三十分からは待望のインターネット部に
よるホームページのプレゼンテーションが行われた。正面会場スクリーンに、ホームページの内容が拡大して鮮明に映し出され、カラー写真入りの素
晴らしい編集によるページが紹介されてゆく。

画面左手にイワクラミッション五つのメニューを掲げ、まず米欧回覧実記とは…から始まり、米欧回覧の内容、一号から十八号にいたる会報内容、各分科会の活動状況とねらいが要領よくまとめられ、主宰の泉三郎氏のプロフィールにいたるまでキメ細かい内容で占められる。



説明する相澤さん(左)と中山さん

解説はインターネット部会幹事の中山進氏、四月一日を期し、開設にこぎつけるため前夜徹夜して尽力した。相澤真実氏から補足説明がなされた。また開設にいたる過程で陣頭

指揮をとった部会幹事の楠木孝雄氏が、会場の片隅で静かに見守っている姿が印象的であった。こうして、国内はもとより世界に向けてイワクラミッション・ソサイエティの発信が始まった。五年目を迎えた米欧回覧の会の歴史的瞬間であり、会場は期せずして大きな拍手でわいた。

ニューメディアの紹介で 会場が沸いた…

第17回例会

歯切れよく展開する 英語版スライド

次いで、スライド英語版のプレゼンテーションが約十五分にわたり行われた。

「The Grand Tour of the Iwakura Mission to the U.S.A. & Europe」と題する英語版は、会場の大半の人たちが初めて目にするスライドであり、なめらかな英語のナレーションとリズムに展開してゆく画面に、いよいよ会も国際的になった感
を深くし、上映終了後、よるこびの拍手が送られた。



話が披露され、現在、ニューヨーク在住の浜地道雄氏の尽力によるところ大であること、またナレーションは、同氏の紹介によるスコット・オブライエン氏(米国編)とジェイソン氏(欧州編)であることも明らかにされた。

「米欧回覧の会」会計報告 1999.4.1~2000.3.31 3月末現在会員数191人

支出		収入	
例会等会費	2,296,089	年会費	792,000
案内郵便代	(131,090)	賛助会費	112,000
会場代	(493,605)	特別賛助会費	815,000
講師謝礼等	(397,674)	例会等の会費	1,847,500
食事・飲物	(1,200,204)	前年度繰越	486,743
備品消耗品	(73,516)	貯金利子	636
NEWS関連費	670,470	合計	4,053,879
15~18印刷	(529,200)		
送付郵便代	(141,270)		
合計	2,996,559	次年度繰越	1,087,320

特別賛助金：3月末の振込み金額は815,000円でしたが、5月10日現在では、79名の方から合計1,055,000円を振り込んでいただきました。いちいちご芳名は申し上げませんが、2~10口と振り込んで下さる方もありこの金額になりました。

「米欧回覧の会」のホームページガイド

- アドレスは <http://www.iwakura-mission.gr.jp> です。世界中どこからでも、このアドレスで私たちのホームページにつながります。ご友人にもこのアドレスを紹介して下さい。
- 第一面から中に入って行くには2通りあります。どちらからでも行き着く先は同じです。時々違う入り方をすると、今まで見逃していたページに出会うかもしれません。
- 一番簡単なのは、第一面の大きな画像をどれでもクリックすること。そうすると第二面に移り左側にメニューがあります。「会報」「グループ活動」「岩倉使節団」などのボタンをクリックすると、望みのページが開きます。
- もう一つの入り方は、第一面の画面をスクロールして一番下にあるメニューの「目次」をクリックすること。このホームページの総目次が出てきます。「会報」1号から本号まで、分科会・支部の名前、使節団の年表など項目がズバリ並んでいます。下線のついた部分をクリックするとそのページが開きます。
- このホームページについてのご意見、ご要望を事務局にお寄せ下さい。皆さんが自由に発言できる「会議室」も準備中です。いましてばらくお待ち下さい。

「米欧回覧実記」の現代性 —フランス編を中心に—

西川長夫氏の講演要旨

例会の第二部は午後二時三十分から半澤健市氏の司会により、まず西川先生のプロフィールが紹介された。氏は立命館大学における「十九世紀ヨーロッパ文化研究会」で「米欧回覧実記」の輪読会をされ、その結果を「米欧回覧実記を読む・一八七〇年代の世界と日本」(法律文化社・一九九五年)として編集・出版された。

約八十分間にわたった講演の後は、例によって九つの国別テーブルに分れ、十五分間のブンブンミーティングを行い、各テーブルのまとめ役から、講演に対する感想、質問が提起され、西川先生がそれに応じた。



★公的記録か

「米欧回覧実記」は日本のフランス学の出発点である。「米欧回覧実記」は公式記録とされている。しかし日記とコメントからなるこの記録は総合的な報告書が出されなかったために公式報告書となつたのではないかと思う。

久米邦武はほとんど独力で全巻を執筆し個人的な自由を發揮している。ただ各国の批

★当時の仏日両国

使節団が滞在した一八七二年一月から七三年二月の間、フランスはどんな状況にあったか。一八七〇年夏に始まる普仏戦争に敗れナポレオン三世が失脚し第三共和制の時期であった。敗戦とパリコミューンの動乱がこれらへの試練となった。臨時政府で不安定であり議会は王党派が圧倒的多数であつて、老練なチエール大統領が難局に対処していたが使節団が離仏してすぐに失脚することになる。

日本ではこの間に太陽暦に改暦するなど留守政府がどん

どん改革を行っている。国立銀行条例公布、徴兵令、学制、鉄道開通などである。

★使節団の見たもの・見なかつたもの

なにを見るべきかはフルベッキのつくつた細目がある。それはフランスの「文明」をみることであった。彼らがみたものは、ナポレオン三世の時代にセーヌ県知事オスマンが大改造したパリの近代的な道路網、広場、駅、などの施設である。そして、プロローニュとヴァンセーヌの森、ピユット・ショーモン公園、上下水道施設、ガス灯の設置、産業博物館、天文台、セーブル製陶場、土木学校、鉦山学校、聾啞学校、さらにはフランス銀行、チョコレート工場、香水工場も見ている。ほとんどパリで過ごした使節団は近代文明のほぼ全容を見たといえるだろう。

久米は「欧州各国、及び欧州人種ノ住スル国ハ、ミナ此都ヲ文明都雅ノ尖点トナシ、遠近ニ尊敬セラレ、英人ノ高慢ナルモ、婦人ノ風俗ハ、巴黎ノ新様ヲ模倣シ露國ノ強大ナルモ、仏人ヲミレハ都人士トナシ、巴黎ノ麗都ハ、天宮月シヤノ想ヒヲナス、抑仏國ノ欧州ニ尊敬セラレ、巴黎ハ文明ノ中枢トナ

リ」と書いている。しかし警察、医療、交通通信施設、パリ大学、学士院、国立劇場、オペラ座、新聞などジャーナリズムについては記述がない。ルーブルについても「三行の記述しかない。この時期の日本人には西洋の純美術の品評は視野の外だつたのである。」



★ナポレオン三世の社会政策

ナポレオン三世を庶民、労働者の味方とみて評価が意外に高いのが実記の特長である。久米は、ナポレオン一世から国民国家の諸制度が充実されたとみているが、とくにナポレオン三世になって経済成長が進んで「全国ノ富庶ハ欧州第一タリ」と書いている。このため普仏戦争の賠償金九五〇万ドルも二年で支

★独仏・英仏の比較論

「仏國製作ノ巧ナルハ、欧州第一ニテ」と手工業の技術を評価しこの長所が大規模の工業にも生きていて「英國ノ工業ハ器械ヲ特ム、仏國ハ人工ト器械ト相当ル」とする一方、独工業については「日耳曼製ノ物品ハ、漸ニ価ヲ失ヒ、衰微セル故ニ、己ヲ得スシテ、仏國品ヲナシ敢テ恥ト

払つたので「英人モ落胆セリ」とも書いている。期限一年で年利九%の公的な庶民金融を行う公益質屋制度、使用者が労働者住宅の建設を行い労働者が賃金から支払ってゆき取得に至る「職工市街の法」、労働者居住地域の公園である「ピユットショーモン苑」などを、ナポレオン三世による成功した社会政策ととらえている。実際、ナポレオン一世と三世の時代がフランス近代の高度成長期であった。

彼の第三帝政は第三共和制前の打倒すべき悪政として、戦後のマルクス主義歴史学やフランスの歴史学者が評価をしてきたが、私は「フランスの近代とポナバルティズム」(一九八四年)で再評価を行ったつもりである。この間の経済成長に注目しなければならぬ。



セス」として評価が低い。比較の基準はなにをもちいるのか。フランスのやり方が「文明」だという視点にたっている。たとえば欧米三都市比較で「倫敦、巴黎、及ヒ新約克ハ、世界三大貿易府都ト称スレトモ、其趣キ自ラ別様ナリ、米國ノ貿易ノ主意ハ、固リ欧地ニ異ナリ、倫敦ハ世界ノ天産ヲ輸入シテ、自國ノ製作力ヲ加ヘテ、再輸出スルヲ主意トス、故ニ之ヲ世界天然物ノ市場ナリト名クヘシ、巴黎ハ之ニ異ナリ、欧州工藝ノ地ニテ、流行ノ根元ナレハ、之ヲ世界工産物ノ市場ト名クヘシ、将来日本ニ於テ、欧米輸出ノ途ヲ開カンニハ、此ニ注意ヲナスコト緊要ナルベシ」として貿易立国型ないしパリ型の産業構造を指向しているように見受けられる。

ここでは美術、工芸、貿易を考えている。生産力主義だけで文明をみていない。富国強兵の先入観をもっている

と、これはなかなか見えてこない。

★世界のなかで

帰路の地中海以後の部分は「付り(つげたり) 帰航日程」とされているが、全五冊中でも重要な部分だと思ふ。フランス編で書かれたことが「帰航日程」でも述べられている。ここは久米が心算して書いている上に、いくつかの重要な指摘がされているからである。一、二の点を挙げておく。

一つは世界が貿易によってひとつにつながっているという認識である。「欧羅巴洲地理及ヒ運漕総論」では、全ヨーロッパの道路や運河などの交通に注目してそれを人体の動脈、静脈にたとえている。これは「富国」への一つの活路を切り開くであろう。もう一つは、西洋人を欲深き人種で快美な生活を求めるものととらえ、東洋人を欲少なき人種で自家の生活を求めるものと見ている点である。これはエコロジ論につながる認識でもあるだろう。これは歴史的転換期における国際関係的認識であった。

いま岩倉使節団が再編成されると仮定すれば、その使節団にはどのような理念が問われることになるであろうか。

西川講演への質疑と応答。(主なもの)

●文明と文化の違いは何か

短時間での説明は難しい。詳しくは「国境の越え方―比較文化論序説」(筑摩書房・一九九二年)や「地球時代の民族Ⅱ文化理論」(新曜社・一九九五年)に書いたので参照して欲しい。

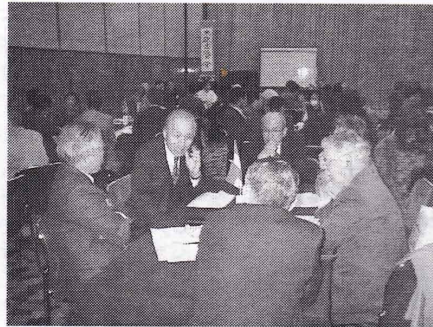
文明(civilization)は、古代都市国家の市民につながる語で都市生活をモデルにしている。その後、人類の進歩や普遍性を強調するようになる。先進国の植民地主義のイデオロギーにもつながる。

文化(culture)は農村社会の生活をモデルにしている。人間生活の多様性と個性を力点をおく。極限ではナチズムにもなる。普仏戦争は文明対文化の戦いということもできる。

●ナポレオン三世と第三共和制をどう評価するか。

人民が共和制を選んだ、といえるかどうかの評価は難しい。人民投票、ナポレオン一世、同三世、ドゴールの系列と議会政治、第三共和制の系列は交互にでてくる。議会政治が必ずしも人民の意志を代

表するとは言えない。



●パリコミューンに恐怖を感じたのだろうか。

使節団のリーダーたちが恐怖の念を抱いたかもしれない。ただ彼らが真相をどの程度把握できたか、という問題はある。のちにコミューン派を勉強することになる西園寺公望も回覧のときには反コミューン派の意見をそのまま受けいれているほどである。

●久米のテキストの元になったテキストはあるのか。

ガイドブックなど参照した

文献はいろいろあったと思う。分かつているものもある。たとえばナポレオン三世の評価は経済学者モリス・ブロックの意見を入れている。実証しにくい問題であり今後の研究課題であろう。

●なぜ仏の民法典から家父長制をとったのか。

フランス民法典が国民国家、家族制度の基礎になっているので日本が採用したのである。

●国民国家は二一世紀にはどうなるのか。

ドイツでは外国人労働者問題などを契機に血統主義の国籍法を改正している。定住社会を基礎にした国民国家は異動社会になればその概念を変えなければならぬ。カナダ、オーストラリアなどの多文化主義もある。資本のグローバルゼーションも進展している。

その場合、なにを理想にするのかは困難な問題である。このテーマで「二〇世紀をいかに越えるか―多言語・多文化主義を手がかりに」(西川長夫・姜尚中・西成彦編)を五月末ごろ平凡社から出す予定である。

(文責・半澤健市)

米欧使節団とキリスト教

小林養丈

昨秋イタリア、オーストリアを旅行し、キリスト教の膨大且つ華麗な遺物を直接目にし、カトリック教が中世以来ヨーロッパ社会に深く浸透し、大衆の生活を支配して来たことを改めて実感した。久米を始め使節団一行も同じような印象を受けたに違いないと思ひ、「宗教」という観点で「回覧実記」を読み直してみた。

回覧実記には、キリスト教についての記述がおよそ三十三箇所にあり、頁数は延べ七〇頁以上に及ぶ。それは主として各国の宗教の歴史、宗派別普及度、訪問見学した寺院、遺物の見聞記等であるが、所々に久米を始め、使節団の人の宗教観、キリスト教観、社会道徳、政治、教育との関連についてのコメントも含まれている。その考え方は維新以降の政治に何等かの形で反映して来ていると思うが、明治政府の採るべき宗教政策としての具体的な提案は特に見当たらない。条約改正上、信教の自由を公認する必要性は知りながらも、使節団

帰国後もしばらくキリスト教禁制を継続している。また治国や文明発展のためにキリスト教の果たした道徳

の価値は認めるが、東洋の政治の基本は、性善説に則った「道徳政治」であると繰り返し述べている。これに対して西欧の政治理念は、権利や営利保護を目的とすると指摘している。この伝統的な道徳政治という基本思想は意識してよしとしたか、或いは無意識のままに、明治政府の中にも踏襲されていると思ふ。しかしその選択は正しかったか、その後の近代化にどういふ影響を与えたか興味のあるところである。近代化は西欧的合理化を目指すからには、物質面の開化だけに留まらず、政治意識として権利や営利保護を目的とした西欧的政治理念を評価する必要があったのではなからうか。明治維新における政治意識改革の不徹底さが、その後の展開にも影響しているように思う。

「実記を読む会」メンバーの読書レポート

全百巻を読了しました

正木孝虎

「趣味は読書」とは、とても

も言えない私が岩波文庫五冊を読み終えた訳です。真に異例の出来事でありませぬ。

逆にならばそれ程にまで私を惹きつける魅力が、この実記に備わっていたのだと思ひます。

私は「米欧回覧実記」をこう読んだ

実記を読み終えた感想としては、明治維新を成し遂げ、新しい日本を築いて行こうとする人々の意気込みとバイタリティを身近に感じるとともに、六〇〇日を上回る視察を行つた一行の強靱な体力と精神力に對してこころから敬意を表する次第です。

また、全百巻にわたる膨大な旅行記を纏め上げた久米氏と畠山氏の努力と熱意にも頭が下がる思いが致します。実記の記述の中には、随所

に先進諸国の優れた制度や技術を学び、自らの考への節にかけた上で、新しい日本の建設に役立つものを採り入れて行こうとする一行の基本的な姿勢が見受けられますが、就中私にとって印象的であったのは、第五十八巻「伯林府ノ記上」に述べられている日耳曼国外務宰相ビスマルク侯の談話であります。

日耳曼国は、欧州において、先進工業技術の開発と言ひ、植民地を基盤とした貿易による繁栄と言ひ、英仏両国の後塵を拝して居り、これら先進諸国に追いつこうと懸命な努力をしていた段階であります。

この点で三〇〇年の鎖国によって生じた遅れを取り戻し、先進諸国に肩を並べることとを焦眉の急務としていた日本に對して共感と親近感を持つて居たであろうと思ひます。

ビスマルク侯は、「方今世界ノ各国、ミナ親睦礼儀ヲ以テ相交ワルトハイエトモ、是全ク表面ノ名義ニテ、其陰私ニ於イテハ、強弱相凌キ、大相侮ルノ情形ナリ」と国際社会の現実を語り、「カノ所謂ル公法ハ、列国ノ権利ヲ保全スル典常トハイヘ

トモ、大国ノ利ヲ争フヤ、己ニ利アレハ、公法ヲ執ヘテ動かサス、若シ不利ナレハ、翻スニ兵威ヲ以テス」と述べて、本音と建前を使い分ける先進諸国のしたたかな外交手法を指摘しています。

ビスマルク侯は、日本の指導者層に對して国際情勢の厳しい現実を示して注意を喚起しています。これは他にも意図するところがあつたかも知れませんが、それを差し引いたとしても、ある意味で自国と立場を同じくする日本に對する親切な助言と理解すべきではないでしょうか。

「当時日本ニ於テ、親睦相交ルノ国多シトイヘトモ、國權自主ヲ重シニスル日耳曼ノ如キハ、其ノ親睦中ノ最モ親睦ナル國ナルヘシト謂ヘリ」との言を久米氏をして実記に書かしたのも、ビスマルク侯が一行に与えた強烈な印象のせいではなからうかと思ひます。いづれにせよ、一行が伯林府にてビスマルク侯から膝を交えて聞かされた本音は、何らかの形で一行の知見に余韻を残し、以後の明治政府の施政にあたって少なからぬ影響を与えたものと考えます。



実記を読む会

Tel:03-5469-2090

Fax:03-5469-2093

クラウンインターチェンジ

五月の「軍事」については、正木さん作成の「実記に登場する小銃と大砲のリスト

四月の「宗教」に続き、五月は「軍事」と毎回テーマと発表者を事前にきめてやっていきます。発表者が用意した、工夫をこらした資料が好評です。



歴史部会

連絡 半沢健市

Tel/Fax:03-3717-5576

kenhanza@ba2.so-net.ne.jp

前回(四月二十四日)の「文明論之概略」読書会はかなりの水準だったと自負してはいますが、同時に福沢諭吉の理解は一筋縄でいかないことをあらためて感じました。

最低、もう一度福沢をやりたいと思っています。

現在、丸山真男の「文明論之概略を読む」の読書会を第一候補に考えています。時期は六月二十九日(木)午後六時からです。

前回の記録を作成中です。六月までには「米欧回覧の会」ホームページに掲載できると思います。ホームページも徐々に活用しますからときどきご覧下さい。(半澤記)



現未来部会

連絡 郡山史郎

Tel:03-3492-8553

Fax:03-3492-8144

現在のグループメンバーの人数は、五十人、内女性七人です。

及びその写真コピー」と水沢さん作成の「明治初期日本の軍政と関連事項略年表」が圧巻でした。充実した、楽しい発表にあつという間に時間が経ってしまします。原典の音読や討論の時間をどうやって確保するか悩んでいるところです。(多田記)

も、米欧回覧の目的が「どのような日本を作るのか」その設計図を書くことでありましたから、わたしどもも、そのことを、テーマに議論をしてきました。楽しいサロンの目的は、達したのですが、内輪の議論ばかりでは、つまらない、外部にも発信しないう、ということになり、「世界の日本、二十一世紀の進路」という、出版物を、皆で作ることになりました。晩春の、四月十九日、第一回の編集会議。こういうものは売れない。「本屋から出せる」と思ったら甘い。市場

分科会だより

価値は無い。倉庫に眠るだけ。誰の目にも触れない。などの、反対意見から、手作りでよいから出したい、伝えたい、配りたい。こんな世の中を作ってしまった反省の意味から、どうしても出そう。という強硬派まで、例によって、議論百出。なかには、実際に、本を出版されている方もおられて、目を白黒されていました。

なにしろ、集団で本を書くという計画が少し無謀です。ね。どんな物を書いて、誰に読ませるか、意見が全く一致しません。意見が分かれたら、多数決できめよう、という提案には、絶対反対の人もいて、さて、どうなりますことやら。

しかし、書いたものを出す意味は、あります。今、日本で出版されている本には、ろくなものは無い。だから返品が、40パーセントでも当たり前。われわれが、書くものは、読む価値が違う。返ってくることなど、ありえない。ペストセラになって、印税が、米欧会にたくさん入って、全員の会費がしばらく、ただにな

る。まあ、そんなことは、ないでしょうが、自分の言葉で、自分の意見を、楽しく述べ合っている仲間が、その楽しさを、外部の人達にも分かち与えようというのは、人の道。それで世の中が、ちよつとでも、良いところになるのなら、もって、瞑すべし。それに、最悪の場合でも、だれも損は、しないでしょう。会合は、十回やっても、一人当たり、東京よみうりゴルフクラブで、一回プレーするより安い。

もちろん、こつちのほうは、はるかに面白い。本が出なければ悔しいけれども、べつに困らない。正論が通らぬ世界の改善にますますファイトが沸くでしょう。まあ、こんな無責任な男が、編集者だからいけないとおこられそうですが、こつちだって、この忙しいのに、好きでもないことを、やらされて、あまるのですから、失うものは、あまり無いのです。いや、失うものは、あります。「お金を失うものは、少し失う。友を失うものは、多くを失う。しかし、愛を失ったら、すべてを失う」と言ったのは、ゲーテでしたか。なんとか愛国心だけは、なくさないようにしようと思います。

というわけです。みなさん、どうぞ宜しく、ご支援ください。(郡山記)



関西支部

連絡 山崎岳麿

TEL/FAX 06-6583-3137

西川先生に京都でお目にかかり、関西支部のことなどお話ししました。五月の集まりは予定通り五月十五日(月)いつもの大阪大学工業会で開きました。

私から皆さんに、第十七回例会の報告、ホームページのこと、西川先生の話、その後の西川先生との交渉経過など説明しました。この他会員栞居さんの「岩倉使節団赤十字訪問」記事(総合文化)のことなど、久米邦武文書刊行のことなども報告しました。

主題の「米欧回覧実記」第一巻アメリカ編を読むのは、半分まで。抜き出した面白そうなどころを読みながら、「アメリカ号」と「飛鳥」をくらべたり、当時の横断鉄道と現在のアムトラックの話をしました(加納さんが在米の息子さんから取り寄せたパンフレットを持参)。当時と現在の人口の比較、「学際的探究」のブラウン氏が書いた「米国の新聞が報じた使節団一行の歓迎ぶり」、伊藤の日の丸演説などが話題になりました。次回は、西川先生のご都合を聞いて、八月に開くことをきめて散会。(山崎記)

「米欧回覧の会」ご案内

趣旨 この会は「岩倉使節団」に興味をもち、その記録である「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。

この大いなる旅と「実記」はまさに「温故知新」の宝庫と言えます。

この素材を媒体にして歴史をふりかえり現代の直面する諸問題についても自由に語りあおうという会です。

会員 上の趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。

例会 年に4回くらい全体例会をもちます。

分科会 テーマ別にグループ活動をします。映像サロン・勉強会・旅行会・研究会・シンポジウムなど。

機関紙 年に4回程度機関紙を発行し活動報告や会員の意見発表、情報交換の媒体とします。

幹事 会員の中から、代表1名、幹事十数名を選び、運営を担当します。

会費 年会費5,000円とし、主として通信費及び機関紙代に充当します。例会・分科会・講演会などについては、その都度の会費とします。

事務局 当面「イズミ・オフィス」に置きます。

〒192-0063 八王子市元横山町1-14-16

E-mail:Info@iwakura-mission.gr.jp

URL:http://www.iwakura-mission.gr.jp

TEL:0426-46-3310 FAX:0426-45-8700

入会申込

氏名・連絡先(自宅或いは勤務先の住所・TEL・FAX)

現職&キャリアを事務局までFAXまたは郵便でお送りください。なお年会費は郵便振込が便利です。

00180-2-580729 米欧回覧の会

分科会へのお申し込み・お問い合わせは、直接各担当幹事をお願いします。

映像部会 岩崎洋三 インターネット部会 楠木孝雄
TEL/FAX:03-3488-0532 TEL:043-277-2009

国際交流部会 浅沼晴男 FAX:043-277-2037
TEL:090-8596-1589 E-mail:ksnoki@msn.com

FAX:0462-75-5634

上記以外は7頁の「分科会だより」を参照下さい。

<催し案内>

2000年6月~8月の予定です。

☆第18回例会

日時：7月29日(土) 13:00~17:00

場所：日本プレスセンターホール

講師：寺島実郎氏

詳細は追ってご案内します。

☆実記を読む会

6月8日(木) 18:30~ テーマ 「産業革命」

7月6日(木) 18:30~ テーマ 「教育」

8月はお休み。

会場はクラウンインターチェンジプログラムです。

☆歴史部会

日時：6月29日(木) 18:00~21:00

場所：国際文化会館Dルーム

テーマ：福沢諭吉「文明論之概略」読書会(2)

前回論じきれなかったところの論議。

丸山真男「『文明論之概略』を読む」の報告も予定しています。

☆現未来部会

日時：6月15日(木) 18:00~21:00

場所：国際文化会館セミナールーム

☆国際交流部会

5泊7日のドイツ・ツアー主催

日時：8月27日(日)~9月2日(土)

ベルリンにおける日本年の中心行事の一つ「岩倉使節団展」への参加を目玉にしたツアー。2頁の「ツアーのお誘い」参照下さい。参加ご希望の方、早めのご連絡をお待ちしています。

☆関西支部

今回は8月に開催。参加希望者は山崎宛にご一報下さい。西川立命館大学教授もご出席の予定です。日時確定次第ご案内します。

編集後記

●二十世紀の歴史的評価の一つに「人類がはじめて、宗教の呪縛から解放された世紀」というのがあるようです。二十一世紀を目前にした今、総理大臣の口から「日本は神の国」発言が飛び出したのは驚きでした。「信教の自由」を守るために、国の機関の宗教活動を一切禁止した憲法二十条の規定の重要性を再認識させられました。

●ミレニアムの年が「米欧回覧の会」にとってはデジタル元年となりました。これまでインターネット無縁の方も、一度は会の「ホームページ」を覗いてみて下さい。「会報」創刊号からの全号一挙掲載が目玉です。「これを機会にパソコンを一台」ということになれば、景気回復につながるかもしれません。

●実は「会報」本号もパソコン編集第一号です。できるだけこれまでの体裁を守るようにしたつもりですが、皆様の採点はどうでしょうか。素人の挑戦で「大変な作業だった」というのが実感ですが、モノを創り上げる楽しみはまた格別でした。

●最後は求人広告。比較的時間に余裕があって、パソコンをお持ちの方。ホームページ作りや、新聞の編集に少しでも関心のある方なら最適です。インターネット部会に加わって、ホームページの更新や、「会報」編集を手伝って貰えませんか。年齢・経験・技術レベル一切不問。ご希望者は事務局またはインターネット部会までお申し出下さい。(K)